

2021年1月21日

お客様各位

セイコーソリューションズ株式会社

SmartCS modules for Ansible Version 1.2 リリースノート

# 内容

<b>Version 1.2 (リリース日 : 2021/1/21)</b> .....	<b>1</b>
1 Ansible2.9 系への対応.....	1
2 smartcs_facts モジュールの不具合の対処.....	1
2.1 gather_subset オプションに tty を指定した場合の不具合の対処.....	1
2.2 インターフェース情報が正しく取得できない不具合の対処.....	1
<b>Version 1.1.1 (リリース日 : 2021/1/21)</b> .....	<b>2</b>
1 smartcs_facts モジュールの不具合の対処.....	2
1.1 gather_subset オプションに tty を指定した場合の不具合の対処.....	2
1.2 インターフェース情報が正しく取得できない不具合の対処.....	2
<b>Version 1.1 (リリース日 : 2019/10/18)</b> .....	<b>3</b>
1 Ansible2.8 系への対応.....	3
2 smartcs_tty_command の機能拡張・不具合修正.....	3
2.1 送信文字列を外部ファイルで指定するオプションの追加.....	3
2.2 sendchar で指定できる送信文字列の拡張.....	3
2.3 文字列の送信前にコンソールの状態をチェックする機能の追加.....	3
2.4 カスタマイズした戻り値を出力させる機能の追加.....	4
2.5 sendchar に関連する不具合の対処.....	4
3 playbook が正常に動作しない不具合の対処.....	4
4 ansible-doc コマンドがエラーになる不具合の対処.....	4

## Version 1.2 (リリース日 : 2021/1/21)

Version 1.2 では以下の機能拡張や不具合修正を行いました。

### 1 Ansible2.9系への対応

本バージョンでは Ansible2.9 系へ対応しました。

管理ホスト (Ansible を動作させるホスト PC) の動作要件については以下の通りです。

SmartCS modules for Ansible	管理ホスト環境		ターゲットホスト環境	
	Ansible	Python	SmartCS システムソフトウェア Ver NS-2250 series	NS-2240 Series
v1.0	2.7.7	2.7 以降 3.6 以降	v2.0 以降	未サポート
v1.1 v1.1.1	2.8.4		v2.1 以降	
v1.2	2.9.15	3.6.8	v2.1 以降	

### 2 smartcs\_facts モジュールの不具合の対処

#### 2.1 gather\_subset オプションに tty を指定した場合の不具合の対処

NS-2250 システムソフトウェア、v2.1、v2.2 との組み合わせ時に gather\_subset オプションに tty を指定した際に、tty 情報を取得できない不具合を対処しました。

#### 2.2 インターフェース情報が正しく取得できない不具合の対処

以下の戻り値について、NS-2250 に IPv4 アドレスが未設定の場合、正しい値が取得できない不具合を対処しました。

- ansible\_net\_bond1
- ansible\_net\_eth1
- ansible\_net\_eth2

## Version 1.1.1 (リリース日 : 2021/1/21)

Version 1.1.1 では以下の不具合修正を行いました。

### 1 smartcs\_facts モジュールの不具合の対処

#### 1.1 gather\_subset オプションに tty を指定した場合の不具合の対処

NS-2250 システムソフトウェア、v2.1、v2.2 との組み合わせ時に gather\_subset オプションに tty を指定した際に、tty 情報を取得できない不具合を対処しました。

#### 1.2 インターフェース情報が正しく取得できない不具合の対処

以下の戻り値について、NS-2250 に IPv4 アドレスが未設定の場合、正しい値が取得できない不具合を対処しました。

- ansible\_net\_bond1
- ansible\_net\_eth1
- ansible\_net\_eth2

SmartCS modules for Ansible v1.1.1 は、Ansible2.8 環境で利用可能なモジュールとなっております。

## Version 1.1 (リリース日 : 2019/10/18)

Version 1.1 では以下の機能拡張や不具合修正を行いました。

### 1 Ansible2.8系への対応

本バージョンでは Ansible2.8 系へ対応しました。

管理ホスト (Ansible を動作させるホスト PC) の動作要件については以下の通りです。

SmartCS modules for Ansible	項目	構成
V1.0	Python	2.7 以降 3.6 以降
	Ansible	Ansible 2.7.7
V1.1	Python	2.7 以降 3.6 以降
	Ansible	Ansible 2.8.4

### 2 smartcs\_tty\_command の機能拡張・不具合修正

#### 2.1 送信文字列を外部ファイルで指定するオプションの追加

対象の tty に送信する文字列を記載したファイルのパスを指定する src オプションを追加しました。本オプションと sendchar オプションは併用することができません。

#### 2.2 sendchar で指定できる送信文字列の拡張

sendchar オプションで指定可能な文字種を拡張し、以下の文字を送信できるようになりました。

—可視化文字 9 種

!(0x21) “(0x22) #(0x23) <(0x3c) >(0x3e) ?(0x3f) [(0x5b) ¥(0x5c) ](0x5d)

—制御文字 33 種

[Ctrl-@] (0x00) ~ [Ctrl-\_] (0x1f) および DELETE (0x7f)

#### 2.3 文字列の送信前にコンソールの状態をチェックする機能の追加

監視対象機器に文字列を送信する前に、監視対象機器のコンソールが期待する状態 (ログインプロンプト等) であるかどうかを確認する機能を追加しました。

initial\_prompt オプションで期待する文字列 (「Login: 」等) を指定することで、送信前のチェック処理が動作します。

なお、本機能を有効にして文字列の送信に成功した場合、以下の戻り値を出力します。

- `pre_stdout`  
監視対象機器に文字列を送信する前のチェック処理における、コンソールの送受信文字列の戻り値を表します。
- `pre_stdout_lines`  
監視対象機器に文字列を送信する前のチェック処理における、コンソールの送受信文字列を改行文字ごとに分割したリストを表します。

#### 2.4 カスタマイズした戻り値を出力させる機能の追加

既存の `stdout`、`stdout_lines` の戻り値に加えて、送信文字列と受信文字列を識別しやすい形式で出力する機能を追加しました。

`custom_response` オプションを有効にして文字列の送信に成功した場合に、以下の戻り値を出力します。

- `stdout_lines_custom`  
コンソールの送受信文字列について、送信文字列(`execute_command`)と受信文字列(`response`)を区別した形式のリストを表します。

#### 2.5 `sendchar` に関連する不具合の対処

- シリアルポートの複数指定時に正常に動作しない不具合の対処  
`tty` オプションでシリアルポートを複数指定し、かつ `sendchar` オプションで `__WAIT__` や `__NOWAIT__` オプションを指定した場合、指定された2番目以降のシリアルポート(「`tty: 1-10`」と指定した場合、2~10のシリアルポート)では文字列が正常に送信されない不具合を対処しました。
- 数字のみの送信時に正常に動作しない不具合の対処  
`sendchar` オプションを使用して数字のみを送信する場合、クォーテーションで囲まらずに指定すると正常に動作しない不具合を対処しました。

#### 3 `playbook` が正常に動作しない不具合の対処

NS-2250 をバックアップ面のシステムで起動している状態において、`playbook` が正常に動作しない不具合を対処しました。

#### 4 `ansible-doc` コマンドがエラーになる不具合の対処

各モジュールのヘルプを出力する `ansible-doc` コマンドにて、オプションとして `smartcs_tty_command` を指定した場合にエラーとなる不具合を対処しました。